

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795600150		
法人名	(株)ハートリンクケア		
事業所名	グループホーム平和苑		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	泉南市樽井1-6-1		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JieiyosoCd=2795600150-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和5年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

提携する病院との医療連携が充実しているため、早期発見・受診等対応できている。又、医師・看護師との協力で看取りに取り組む準備ができ、実際に看取りを行っています。入浴は機械浴もあり、立位不可になっても毎回お湯に浸かれます。入居者様の尊厳を守ったケアの提供の為、「感謝の気持ちを伝える!」「自信を持っていたらこう!」など毎月様々な職員の取り組みがある。リハビリスタッフにより、個別にリハビリ指導があり、ケアプランに反映させ全職員が把握できるよう、ケアチェック表を作成し日々実践をしている。毎月、平和苑理念を毎月振り返り、取り組みも行っている。また、毎月研修を行い、職員の介護知識、介護技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「私たちは入居者様の尊厳を守り、ありのまま今を輝か暮らしを支援します!愛と笑顔あふれる心の家族を目指します!」を理念に掲げ、利用者の尊厳・尊重に配慮した支援を実践しています。管理者は、平和苑に入職して12年を経た本年4月に現職務につきました。入職後ひと時も変わりなく、家にいるように、ゆったりと時が流れるような利用者本位の暮らしの継続に繋がるよう努力しています。そのためには、コミュニケーションを大切に、どんな小さな情報も職員間で共有するよう努めています。協力医療機関が近隣で、訪問看護師による毎日の訪問をはじめ医療との連携の充実は、利用者・家族の大きな信頼と安心感に繋がっています。ホームでの看取りも実施し、職員は看取りの経験からの「後悔の無いケア」に心を留めて、日常のケアに活かしています。近隣には桜並木もあり環境に恵まれています。これまで外出も制限されていた中、今後は外気浴、外出も活発に取り入れ、さらに活き活きとしたグループホームを目指します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を意識し介護、支援をする上での基本姿勢にしている。又、毎月のカンファレンスにて、理念に基づいた取り組みを話し合い実践している。フィードバック面接時に理念を意識した行動が出来ているか等を管理者と職員が話を行っている。	「私たちは入居者様の尊厳を守り、ありのまま今を輝く暮らしを支援します！愛と笑顔あふれる心の家族を目指します！」の理念を掲げ、利用者の尊厳・尊重に配慮した支援を実践しています。また、理念に沿って年間目標をたて、今年は「思いやりを大切に居心地の良い環境を作る」を掲げ、具体的には「入居者様が喜んで下さる会話や喜びを探し、職員間で共有をする」に取り組みました。理念は玄関入口に掲げ、毎月発行している「平和苑だより」にも掲載して、家族や地域に事業所の理念への理解が深まるよう工夫しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組参加。地域住民が自由に集える平和苑カフェを月1回開催。(現在コロナウイルス感染防止の為休止中)地域のスーパーへ買い物。又日常的に散歩や歩行訓練、機能訓練で地域に出ている。	地域住民が自由に集える月1回の「平和苑カフェ」もコロナ禍のため休止していました。感染状況の見通しが立ち次第、開催して「カフェだより」のご近所配布も再開したいと思っています。現在は飲食無しでの家族や職員との周辺散歩を取り入れて地域とのつながりを継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	泉南市地域密着型事業所交流会を2か月に1度開催し、各事業所の実践例等を話し合っている。月1回の平和苑カフェでは地域の方々やグループホームのご家族様が、認知症の人の理解や予防などを話題にしており、「カフェだより」をご近所にも配布している。(現在コロナウイルス感染拡大防止の為中止)管理者と計画作成担当者がキャラバンメイトとして、地域へ認知症の啓発活動、および、認知症相談会へも参加している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、イベントの報告や利用者様の身体状況等の報告をしている。又困難事例や業務の困り事等も報告相談し、頂いたご意見を参考にしてている。外部評価についても報告をしている。	運営推進会議は、2カ月に1回、利用者・家族・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員等の参加で開催しています。会議では活動状況や利用者の状態等を報告し、意見や評価、助言を得てホームの運営に活かしています。議事録は家族にも送付しています。	事故報告やヒヤリハットは個々の家族に伝達しています。運営推進会議でも利用者の状況報告と共に事故やヒヤリハットの内容を議題に上げ、報告されてはいかがでしょうか。会議でも報告することが職員の意識を高め、啓発にも繋がります。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ご意見を伺っている。毎月発行している「平和苑だより」にて自施設の様子を理解して頂いている。	市の担当者は、運営推進会議にも参加、また「平和苑だより」の配布等で事業所の理解に繋がっています。困難事例は地域包括支援センターへ相談し、報告もしています。泉南市長寿社会推進課とは、常時相談協力体制にあり、関係性を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、3か月に一度研修を行い、職員の意識を高めている。又身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。玄関は施錠しているが、要望があれば、見守り、付添の元、開放している。	身体拘束委員会を3か月に1回開催しています。また、虐待やスピーチロックに関する研修も実施し、職員で個人の尊厳を守るケアの確認を行っています。管理者は日常的に職員への細かい声掛けに努め、職員のストレス軽減に努めています。気になる声掛けなど耳にした場合は、その都度注意をしています。センサーマットを使用する際は、目的を確認し家族にも説明しています。グループホームが2階にあるため、階段の危険回避のため、入り口は施錠しています。要望があれば、見守り・付添いの元、開放しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、職員間で認識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様・ご家族様が現在はおられないが自施設にて研修を行っている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明を十分に説明し、理解して頂いている。改訂の際には、その都度、重要事項変更同意書を作成し、説明させて頂き、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎に担当者会議を開き、ご家族様・ご本人様の思いや意見を伺っている。また、面会時にも伺うよう心掛けている。、苦情等あればその都度対応し、運営推進会議で報告をしている。その内容は運営推進議事録で全ご家族様に報告している。	面会は1階の共有ルームで実施、飲食無しなら散歩もできるようになったので、家族の意見を聞く機会が多くなりました。運営推進会議にも家族の参加があり、意見を聞くことができています。家族の意見で、1階プレイルームを利用したスポーツ大会を実施し、外から家族に見てもらうことができました。12月にはボランティアによる「よさこい節」演技や「クリスマス会」を予定しています。今後、家族へのアンケートで、平和苑に対しての家族の思いを全職員が知る機会が作れるよう計画を立てています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務改善ファレンスという会議を行い、職員からの意見を収集し、検討、話し合いを行い、ケアの向上、業務の改善に努めている。又どんな意見も言える職場の雰囲気・環境作りを心掛けている。	毎月、業務改善カンファレンスを行い、業務改善やサービス向上について話し合っています。11月は「楽しみ喜びを探そう」と目標を掲げ、「入居者様が喜んで下さる会話や喜びを探し、職員間で情報共有をする」を実践しました。管理者は半年ごとに個別面談を行って、職員が自主性と想像力を発揮できるように努め、何でも言いやすい関係性を保つことで、ストレス軽減にも繋がるようにと考えています。皆が「輪」に入れるように、また分からないことがあれば、お互いを思いやり接することに努めるなど、コミュニケーションを大切にすることは職員の定着に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営法人の人事考課制度があり、年2回個人面談を行い、半期ごとの目標・それを達成するには？と課題を明確にし、アドバイスをしている。悩み等も聞いている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加を促している。職員に、年に一度どのような研修を望むかアンケートを取り、それぞれが望む研修を企画し、苑内にて研修を行うことで不安なくケアに取り組めるよう努めている。			
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉南市地域密着型事業所交流会で、情報交換や連携を図っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、不安なら気軽に見学していただき、体験利用が可能。ご本人との関係を築くよう努め、安定的に利用に移行できるよう努めている。			
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に見学に来ていただき、ご家族様の不安な思いを傾聴している。体験利用をし、安定的に利用に移行できるよう努めている。			
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人様、ご家族様の事情や要望を元に、どのような支援が必要か見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。必要に応じて他のサービスの利用を薦めたりもしている。			
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と喜怒哀楽を共にする事の重要性を理解し、利用者様と共感できるよう日頃から努めている。日常の食事作りや洗濯干しなど、家事、作業の場面では能力を発揮して頂き、共に支え合う関係作りを行っている。			

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や送迎時に近況報告をし、ご家族様に把握して頂いている。担当者会議にはできるだけご家族様に参加して頂き、思いを聞き出すよう努めている。行事にもご家族様の参加を呼びかけ楽しみを共感して頂いている。(現在コロナウイルス感染防止の為、ご家族様の参加はお断りさせていただいている)			
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会の受け入れ(現在コロナウイルスの為面会制限あり)や、電話もいつでもかけられようとしている。要望があれば、買い物などの支援も行っている。(現在入居者様からの要望がない)	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍もあって、現在は飲食無しで1階の共有ルームにて行っています。外出も会食なしで復活しています。交友関係者との電話はいつでもかけたり、受けたりすることができます。以前は、行きつけの美容室に出かけたりする利用者もいました。		
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に支えあう暮らし大切さを職員は十分に理解している。利用者様の個性や能力を把握し、利用者様同士の協働の場面(調理・洗濯等)を多く支援している。利用者様同士の支え合う微笑ましい場面は共に喜び認め支援している。			
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなられた後も、ご家族様へボランティア協力や、平和苑カフェへの参加、家族会への参加を呼びかけ、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスや計画見直し時に「その方の立場になって」思いを馳せ、又自分から思いを言えない方の意向の把握に努め、職員全員で検討しケアに活かしている。	全職員が半年ごとに「何でも情報」として、一人ずつの生活歴や好きな物、きれいな物など記録しています。また、日々での気付きや発見を「記録ノート」にその都度記載し「知らなかった」がないよう職員間で情報共有をしています。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が半年毎に「なんでも情報」として、お一人ずつの生活歴や好きな物、嫌いな物などの情報を集め記録している。面会時にご家族にも情報の提供をして頂いている。また定期的にケアカンファレンスを行い、情報の把握に努めている。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助計画書で、お一人ずつの一日の過ごし方を把握し、心身状況に合わせて随時ケアカンファレンスを行い見直ししている。さらに「何でも情報」で、新たな発見があれば、追加記入し全職員が把握できるようにしている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。半年ごとの担当者会議ではご本人・ご家族様と共に意見交換をしている。定期的にケアカンファレンスを行い全職員でアセスメントし、介護計画に反映している。	計画作成担当者は、これまで出来ていたことを大切に、利用者、家族より聞き取った情報を基にアセスメントを行い、より良く過ごせるよう介護計画を作成しています。介護計画は6カ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直ししています。サービス担当者会議に参加する家族もあります。随時、ケアカンファレンスを開き、利用者一人ひとりについて意見を出し合い、介護計画に活かしています。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表にて毎日のプランの実施状況を把握でき、介護計画見直しに生かしている。個別記録にも状況を記録し、毎日伝達ノート等も活用し情報を共有している。気づき、発見メモを活用し、実践に活かしている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院支援・歯科訪問支援・入退居時の荷物運搬支援等、ご本人やご家族様の情報に応じて柔軟に対応している。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーマーケットの毎日の買い物。消防署との合同避難訓練。困難事例の地域包括支援センターへの相談等で地域資源と協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の連携医療機関や今までのかかりつけ医・希望の病院を受診して頂いている。基本は家族同行の受診だが、必要に応じ受診に付き添いする。また連携医療機関からの訪問診察、他院歯科訪問診察も行っている。	連携している医療機関の看護師には、毎朝の連絡を欠かしません。看護師は、毎日訪問し、利用者に体調の変化がある時もすぐに対応できるようにしています。本人や家族の希望により協力医療機関の訪問診療や希望の病院を受診しています。通院は家族が付き添いますが、必要に応じて職員も同行しています。夜間や緊急時はオンコールで相談できる体制です。医療との連携の充実は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の訪問看護ステーションと契約し、看護師や主治医と24時間連絡を取れる状況にある。毎朝看護師と連絡を取り、利用者様の体調報告をし、受診が必要と判断されればすぐに対応している。看取りでは医師の説明に担当看護師も同席し、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意向確認をし、家族と共に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際病院関係者に情報提供し、ケアについて話し合っている。また担当医には短期間の治療で早期退院できるよう伝え、家族・病院関係者との話し合いの場を設けている。		

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様の意向を踏まえ、連携医療機関の医師・看護師と職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。定期的な、看取りカンファレンスを行い、ご本人とご家族様の意向や、問題点や不安なことに対し話し合い、意向に沿ったケア、ケアの統一にチームで取り組んでいる。ご家族様にも事業所の取り組みを公開し、了承を得ている。	ホームでの看取りについては契約時に説明し、利用者の意向を確認しています。看取りのマニュアルがあり、本人や家族の気持ちに寄り添い、協力医療機関の医師や看護師と連携を取り、本人が自分の希望を伝えて、納得した最期を迎えられるように支援しています。看取り期には、家族も一緒に居室で過ごせるよう配慮しています。職員は、褥瘡を作らないように、いつ別れが来ても悔いが残らないように毎日支援をし、最期には利用者と一緒に見送りをしています。本年度は、1年間で3人の看取りがありました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず適切な行動が取れるよう定期的に研修を行い、応急手当についても訓練も実施している。連携医療機関への連絡、救急車の手配などの模擬訓練も実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し利用者と共に避難訓練・夜間火災を想定した夜勤者対象の避難訓練も実施している。年2回設備点検を実施する際にとラパーチェ泉南との避難訓練の実施。そのうち1回は消防署との合同避難訓練をし、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。又、毎月職員のみで夜間帯の避難訓練実施。災害時に備え備蓄、ポータブルトイレも準備、地震に備えた環境整備もしている。月に一度「防災の日」を制定し、職員の防災意識を高めている。	マニュアルを作成しています。年2回の避難訓練のうち1回は消防署員と一緒にしています。火災や災害時の利用者誘導をより安全に効率よく実施するために、首にかけられる紐付きの名札を各居室に設置し、誘導した職員が利用者全員の状況を確認できるように工夫しています。設備点検では、消火器の期限も点検しています。水や非常食の備蓄品には消費期限をわかりやすく貼って管理しています。各居室でもタンスには地震対策として転倒防止突っ張り棒を設置しています。災害時の停電を想定し、ガスコンロを使って調理実習もしています。	消防署が参加する避難訓練では消防車が来たり、ベルが鳴ることもあります。近隣の住民を驚かせない様、事前にお知らせすると共に、緊急時の協力をお願いしてみたいと思います。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事に敬意を払い、丁寧な言葉かけを心掛けプライドを損ねないよう全職員が気をつけている。 尊厳・プライバシーについての研修会を行い、「自己選択・自己決定」が出来る声掛けをするよう、全職員で取り組んでいる。必ず一人一人目を合わせ職員を認識してもらい、「〇〇しませんか？」という自己決定しやすい声かけを意識するようにしている。	尊厳・プライバシーについての研修をしています。職員は、自己選択・自己決定ができるような声掛けをし、利用者の意思を尊重した対応をしています。職員の言葉かけや態度は優しく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重しています。訪問時は、利用者「ありがとう」の言葉かけが多くありました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日に食べたい献立などの好みを伺い、希望をお聞きしている。その日に着たい洋服を選択して頂く、食後に飲みたい物をお聞きする等、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	体調が悪い時、眠い時間帯等その方のペースで過ごして頂いている。お好きなテレビ番組、音楽鑑賞、計算問題、絵を描く、塗り絵、散歩、運動等その方に合わせた、その方の能力の発揮できる過ごし方をさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者様はお化粧の支援、ご自分の好みの化粧水等を使用して頂いている。(現在お化粧の要望されている方がおられない)男性利用者様は、髭剃り支援を行っている。毎朝整容も出来ない方は介助させて頂き、洋服もできる限り自己決定できるよう支援している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にして頂いている。献立は職員が立てるが、誕生日にはその方の食べたい物を伺っている。食事中は楽しい会話を心掛け温かい雰囲気づくりに努めている。	食事は、3食ともホームで作っています。食材はスーパーへ前日注文し、当日取りに行くようにしています。利用者はできることを職員と一緒にし、職員も同じのものを食べています。誕生日には本人の希望するメニューを楽しむことができ、ケーキは利用者皆で祝います。おせち料理、手巻き寿司、遠足弁当、ウナギ、屋台メニュー、餃子パーティ等、食の企画も楽しんでます。アレルギーのある方には別メニューを提供、毎日パン食の方もいます。食堂のパーティションがなくなり、利用者は職員の見守り、介助で楽しく食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養スクリーニングを実施し、ご利用者様の栄養状態の把握に努めている。毎月体重測定を実施し、医師の指示がある方には食事量・水分量の記録や調節、トロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。ご自分で出来る方は見守りや声掛けのみにし、出来るだけご自分で行って頂き、援助が必要な方には、スポンジ・ガーゼ等にて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら、ご利用者様のタイミングを見逃さないようにし、身体機能に応じて支援している。日中はトイレでの排泄を支援しオムツ類も身体機能に応じて使用している。排泄チェック表を使用し、排泄状況の把握に努めていつ。尿意・便意のない方は時間を見計らって誘導しトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を作り、利用者のタイミングに合わせて、プライバシーに配慮しながら支援しています。尿意・便意のない方は、食事前や寝る前等、時間を決めて声掛けをして排泄できるように支援しています。病院からの退院時にオムツでも、ホームに帰ってからはリハビリパンツになり、トイレで排泄ができるようになった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事でも出来るだけ水分や食物繊維を摂取出来るよう支援している。便秘気味な方は排泄チェック表にて、排便周期を把握し、下剤の量を調節しつつ排便コントロールを行っている。体操や散歩、腹部マッサージをし、サイクリングマシンを用いて下肢運動も実施している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週2回入浴していただくが、体調と本人の希望に合わせて1回の方や清拭の方もおられる。仲の良い方同士の入浴も実施。基本は個別誘導にしている。入浴を拒否される方には、声掛けや対応等の工夫をしている。入浴時間は午前10時～12時までとしている。	利用者は週に2回午前中に入浴しています。風呂好きで、ある程度自立している利用者には個別の見守りで対応しています。入浴を好まない利用者には、仲の良い利用者同士での入浴や声掛けの工夫をしています。機械浴を利用することで重度になっても安心して入浴ができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時や体調が悪そうな時は日中帯も臥床して頂くよう配慮している。なかなか寝付けない方や中途覚醒された方には温かい飲み物を提供し、じっくり傾聴する等、安心して入眠できるよう支援している。また、室温も小まめに調節するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬の処方があった時は受診記録や伝達ノートにて全職員で情報を共有し、状態等の変化があればすぐに医師に報告している。またいつでも調べられるよう薬情ファイルをヘルパー室に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・家事・雑誌・歌・計算・塗り絵、お散歩等、能力・好みに合わせた楽しみを提供している。季節ごとのイベント(お花見・遠足・運動会・お月見等)に参加して頂き、季節を感じて頂ける支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良ければ散歩、歩行訓練を兼ねた散歩にも出かけている。歩行困難な方にも、車イスにて散歩をして頂いている。花見や遠足、紫陽花見学や藤棚見学、紅葉見学を企画し、ご家族にも参加して頂いている。	天気の良い日は感染予防対策をして近くへ散歩に出かけています。車いすの利用者も一緒に、桜の花見やアジサイ、藤の花見など家族も参加して出かけています。会食はできませんが、家族と一緒に、法事に参列したり花見に出かけたり、自宅に帰る等、外出する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金である事を意識して頂き、ご希望の商品を購入にしている。		

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば年賀状等を書いて頂く。電話は専用の電話を設置し、希望時にはいつでも掛けて頂けるように支援している。誕生日や母の日等の贈り物にはお礼のお手紙を書いて頂いたり、電話をかけて頂いている。			
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう壁面担当者が利用者と共に作成した作品を壁に飾り付けている。台所ではいつも調理の音や匂いが楽しめ、家庭的な雰囲気大切にしている。トイレは各居室にあり、ゆっくり安心して排泄して頂ける。空調管理には常に気を配っている。	玄関からホーム2階へ続く階段の壁面に手作りの額に入れられた利用者の写真が飾られています。入り口の壁には、職員の名前付きの写真が貼ってあります。廊下には、ことわざクイズがあり、リビングの壁にはみんなで歌うための歌詞が貼られています。サイクリングマシン、加湿器、大きなテレビ、ゆっくりとくつろげるソファもあります。テレビにはYouTubeが内蔵されており、季節の景色や懐かしい歌が映像と共に流れています。リビングに居ながら調理の音や匂いも楽しめます。整理整頓された清潔な環境は、居心地よく家庭的な雰囲気のある共有空間となっています。また、ベランダからりんくうの花火を楽しむこともあります。		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みスペースがあり、ゆっくりと過ごせる様にしている。利用者の皆さんは、食堂で過ごす方が落ちつかれるようで、食席にて会話を楽しまれている。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での馴染みの家具や椅子、家族の写真、神棚、化粧品セット、花、人形、趣味の品等を持ちこんで頂き、利用者様に居心地の良い空間になるよう工夫している。	居室入り口には、手作りの写真入れに利用者の顔写真を入れて飾っています。エアコン、ブラインド、タンス、ベッド等はホームで設置しています。馴染みの時計、ぬいぐるみ、家族の写真、化粧品、テレビ、椅子、加湿器、仏壇等を持参している方もあります。自分の作品の塗り絵等を飾っている居室や、床にフロアクッションを敷いて転倒してもケガをしないように安全に配慮された居室など、個々に工夫が凝らされています。各居室には洗面所とトイレがあり、気兼ねなくゆっくり過ごせるように設えています。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方の居室には食堂の椅子等を並べ手すりがありにして頂き自由に過ごして頂いている。		